

2001年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球500 hPa 高度では、極付近はシベリア側で正偏差、北アメリカ側で負偏差となった。極渦の中心はグリーンランドの北西に位置した。ヨーロッパの西海上からロシア西部にかけては、明瞭な波列状の偏差が東西に分布した。ヨーロッパ付近ではリッジ場で正偏差、ロシア西部から西シベリアではトラフが深まり負偏差が分布することが多かった。中央・東シベリアから東アジアにかけては広く正偏差となり、日本の北で顕著だった。ベーリング海からアラスカ、カナダにかけては負偏差、その南側の太平洋東部からアメリカ合衆国南部にかけては正偏差が分布した。

対流活動では、アジア・モンスーン域の対流活動は平年に比べて活発であり、特にインドからインドシナ半島、マレー半島、インドネシア西部にかけてとニューギニア島付近で活発となった。一方、南シナ海からフィリピンの東海上にかけては、先月に引き続いて対流活動が不活発であった。ITCZ(熱帯収束帯)の対流活動は、西部太平洋、東部太平洋、大西洋上で活発であった。インド洋赤道域は、南半球側の東部で活発、中部

から西部にかけて不活発であった。

200 hPa 速度ポテンシャルの分布図を見ると、大規模な発散域の中心はマレー半島付近とニューギニア島の北東海上に分かれて位置しており、平年と比べて東西に広がった分布となった。

SOI(南方振動指数)は-0.1であった。

世界の天候

① 西日本から遼東半島の多雨

朝鮮半島北部では中旬に低気圧の通過により大雨となり、死者80人以上が報じられた。

② 中国中部から華南の高温

③ フィリピン周辺の高温

④ パキスタンからアラビア半島の高温

⑤ ヨーロッパからアフリカ西部の高温

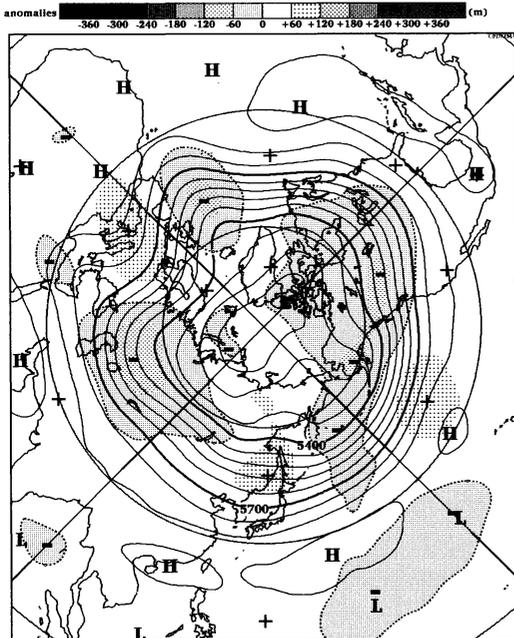
イギリスのイングランド中部の月平均気温が1659年以降で最も高い記録となった。

⑥ 北米東部の多雨

⑦ 南米北部の高温

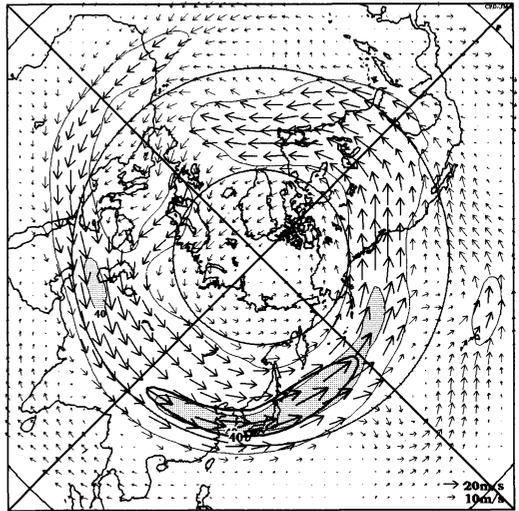
⑧ オーストラリアの低温

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 牛田信吾)



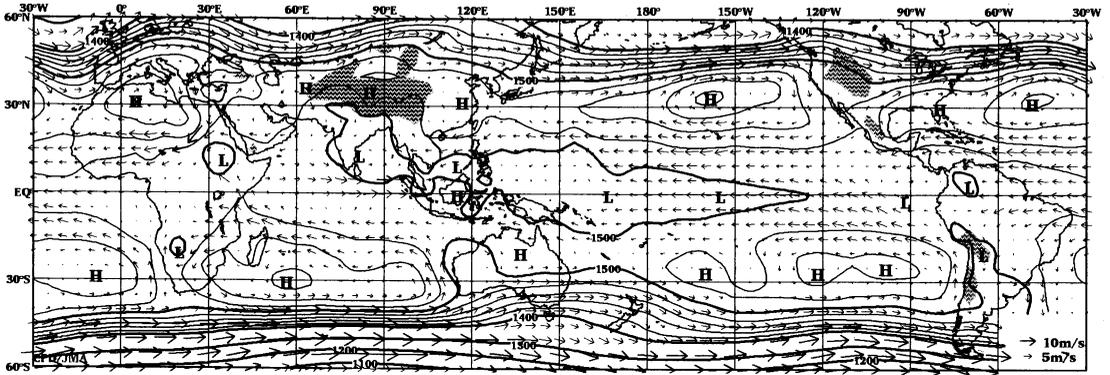
2001年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および年偏差

等値線の間隔は 60 m, 偏差パターン間隔は 60 m, 年偏差は 1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。

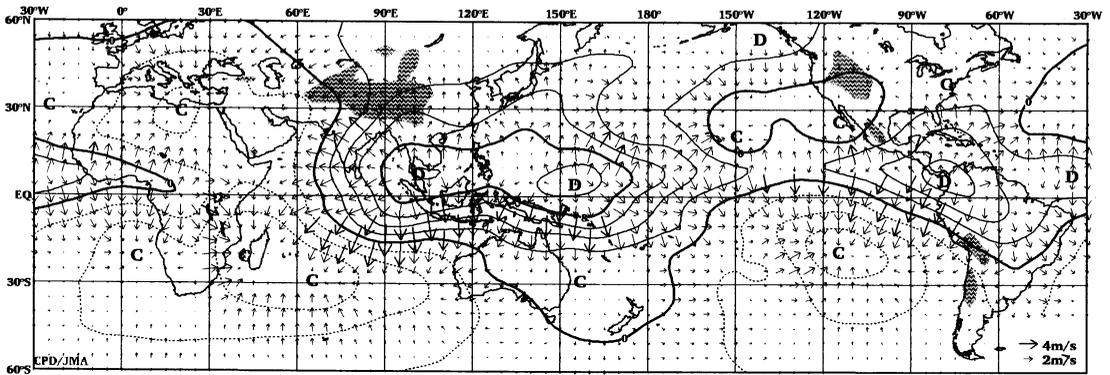


2001年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

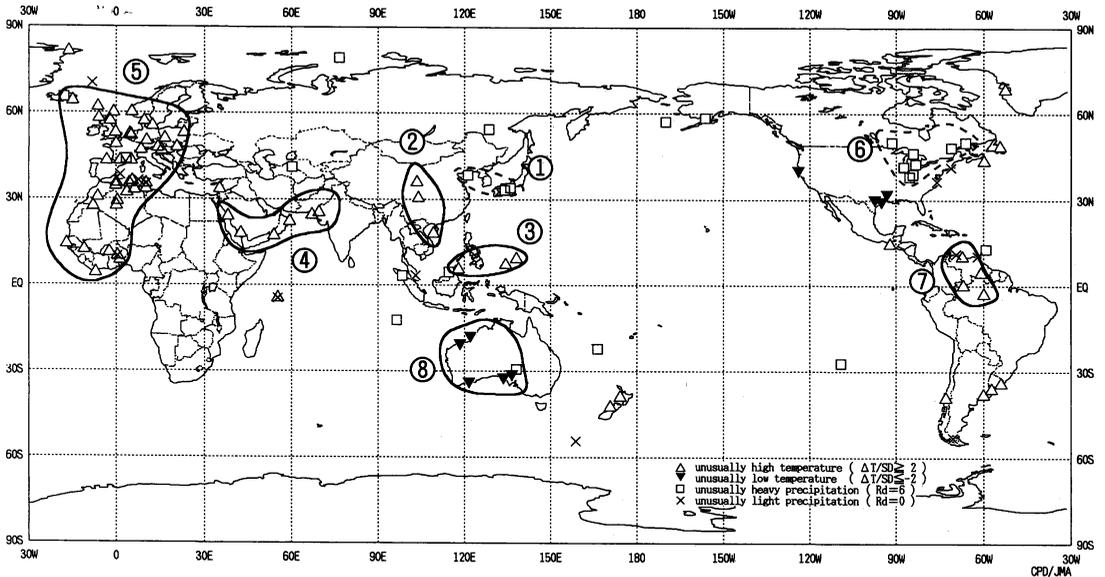
等値線間隔は 20 m/s. 陰影部は平年で 40 m/s 以上, 太実線で囲まれた領域は平年の 40 m/s 以上の領域を示す. 年偏差は 1979~1993年の ECMWF15年再解析データによる。



2001年10月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 mまでは 100 m).



2001年10月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$.



2001年10月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.